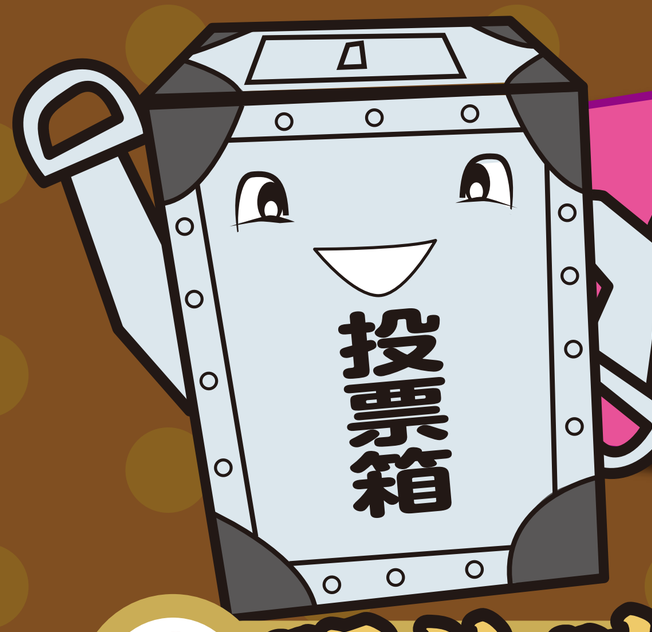


選挙の歴史

1 明治時代

選挙制度の成立

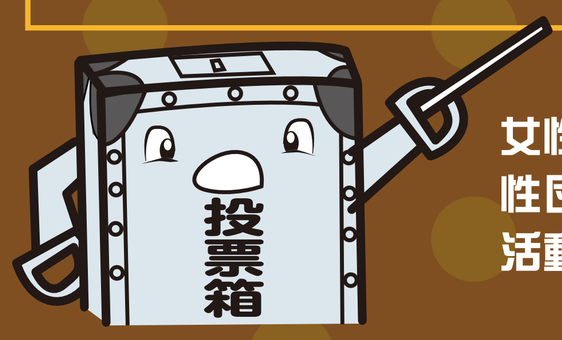
1890（明治23）年、日本ではじめての選挙である衆議院議員選挙が行われました。選挙権を持っていた人は、直接国税15円以上を納めている満25歳以上の男子に限られていました。このときの有権者の数は、総人口の約1%とごく少数でした。

一般民衆も投票できるように、全国各地で納税要件の撤廃を求める運動が行われました。

2 大正時代

男子普通選挙の成立

1925（大正14）年、納税要件がなくなり、25歳以上の男子が選挙権を持ち、有権者の数は、総人口の約20%と大幅に増えました。この時から男子普通選挙となりました。

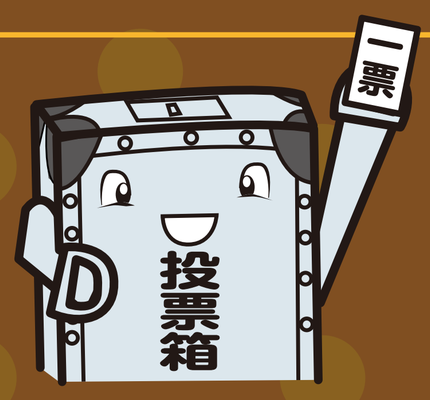


女性の社会的地位の向上のため、女性団体による選挙権獲得のための活動が全国各地で行われました。

3 昭和時代

完全普通選挙の成立

1945（昭和20）年、20歳以上の男女みんなが選挙権を持つようになりました。有権者の数は、総人口の約50%となりました。この時から、完全普通選挙となり、現在に至っています。



川口市マスコット「きゅぽらん」

川口市選挙管理委員会　川口市明るい選挙推進協議会

選挙のめいすいくん